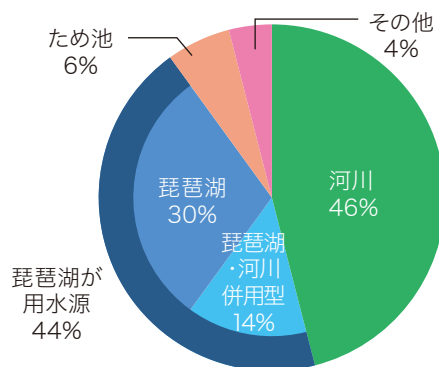


滋賀県農業の特徴

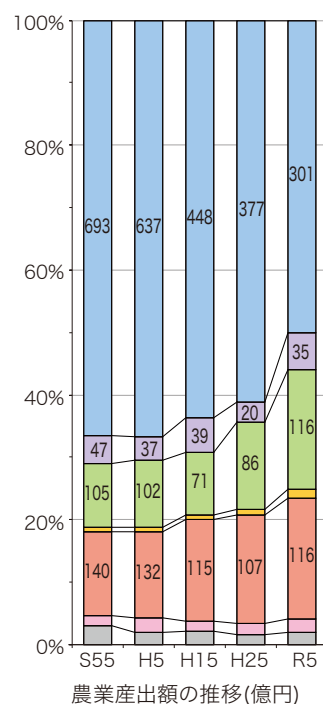
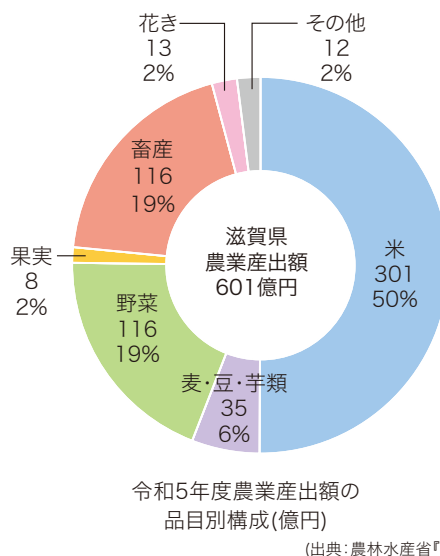
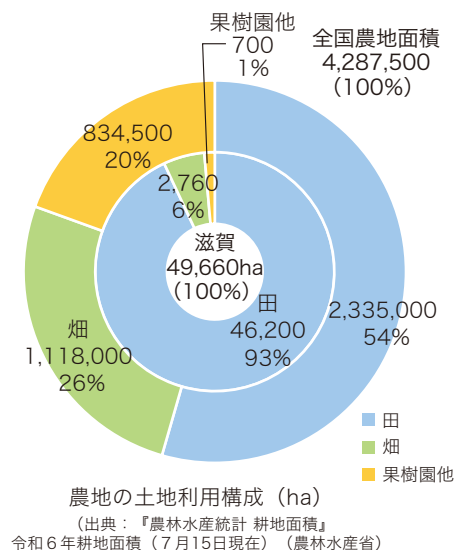
琵琶湖が用水源

農地の約4割は琵琶湖を用水源としています。
通常、河川水で稲作を行うには、水田面積の10～13倍の流域面積が必要とされていますが、滋賀県では全水田面積のおよそ6倍の流域面積しかありません。
そこで、さまざまに水源開発が行われ、特に琵琶湖からの揚水によるかんがいを進展させてきました。



近江は米どころ

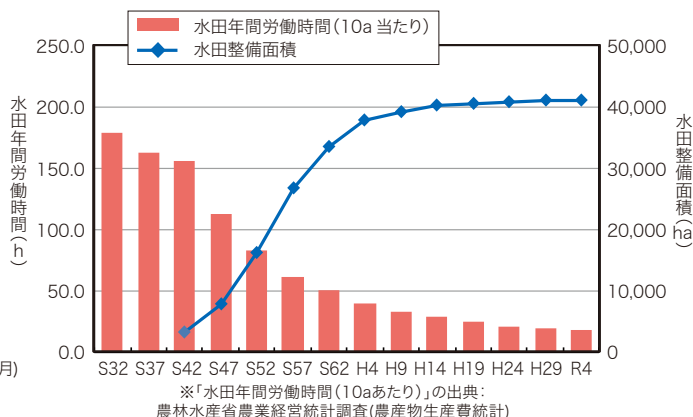
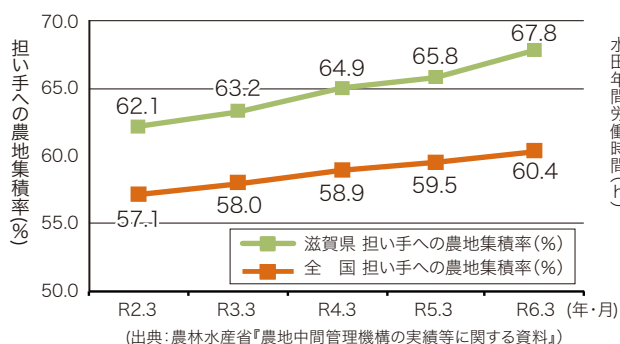
琵琶湖を抱き、四方を鈴鹿や比良などの山々に囲まれた滋賀県は、温和な気候と豊かな土壌に恵まれ、古くから水田開発が進みました。
現在でも近江米の産地として水田農業が盛んに行われており、特に農地の水田率は約93%（令和6年）と、全国で2位です。



農業産出額のうち50%（令和5年）を米が占めていますが、近年は野菜などの園芸作物の比率が高くなってきています。

生産性の高い農業

昭和47年から平成8年まで行われた琵琶湖総合開発の時期に、ほ場整備が大きく進展しました。
また、担い手への農地の集積や大型農業機械の導入も進み、水田労働時間は大きく短縮され、生産性の高い農業が実現しています。



●滋賀県の農業用水水源別依存状況

